

みらいん

わかばやし

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。

第 11 号



◀結成記念の一枚。今後活動を支援してくれるボランティアを探しています。ご連絡は 080-5223-1918まで

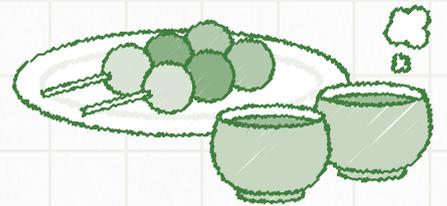
今月の
ひと

地域の交流再び

「あらはま」の女性たち

つながりを取り戻そう。新しい集いの場へ

サンピア仙台の一室に賑やかな声が響きます。
この日は、荒浜にお住まいだった女性たちによる新グループの発足記念会です。
決められた会の名称は、荒浜移転まちづくり協議会女性部「あらはま」。
メンバーは皆、借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方々です。
震災後はそれぞれ、エコたわし作りの手仕事、
フラダンスや念仏講などの集まりがあったものの、
お金を出し合って有料の会場を借り、時間の制限を気にしながらのものでした。
しかし、住民グループの荒浜移転まちづくり協議会が
サンピア仙台に構えた事務所を利用できることになり、
時間を気にせず、多くの人と一緒に語り合える場所ができたのです。
「今後は、定期的なお茶会のほかに、手仕事や趣味のサークルなどの活動に、
この場所を使えるようにと考えています。借り上げ住宅に住む人たちにとって
気軽に足を運べる集いの場にしたい」と、代表に就任した佐藤まさ子さん。
新しい集いの場に笑顔が広がっていきそうです。



2012

10月

地域で農業体験



Sendai - Taishido Project

その後訪れた下飯田の白河高原農場では、近代的なハウスの中でトマトを作っていました。これは、被災農家を支援しようという、全国的なレストランチェーンの取り組みです。係の方の指導を受けながら、真っ赤に色づいたトマトを収穫。別れ際に一同がお礼を言うと「東京に帰って、サイゼリアで食事をするときには、ここで採れたトマトが出て来るかもしれないよ。きっとここを思い出してね」と見送ってくれました。

震災と防災についての話し合い

今回世田谷から来たグループが宿泊したのは、上荒井公会堂でした。2日目の夕食に上荒井町内会のお母さん方が作ってくれたカレーライスを食べながら、震災直後に地域で対応したことや、ライフラインの復旧状況、役に立った物、役に立たなかった物など、情報交換をしました。太子堂地区は木造住宅の密集地で、以前から防災に関する意識の高い方が多く住んでいることもあり、互いの地域における防災対策や、日ごろの備えなど、話し合いは遅くまで続きました。

六郷・七郷の皆さんありがとうございました！ また、きっと、お会いしましょう！ ～太子堂地区の皆さんからのコメント～

- 荒浜でお話をうかがった佐藤さんから「生き延びてください」と言われた言葉が心に残っています。
- 野菜がとても美味しかったです。お会いした方々は初対面の私たちに嫌な顔をせず様々な話をしてくれました。六郷・七郷地区の方のDNAなのでしょう。
- 東京と仙台の交流を通じて考えた事を「今、私にできる事から始めよう」という題で作文にしました。
- 仙台で経験したことは、心と頭にしっかり残っています。
- 宮城のササニシキが美味しかった。友達にも津波の話をしました。



Sendai - Taishido Project

二木の専業農家大内文浩さんを訪問した一行は、大内さんの畑で細かいガレキを拾ったり、枝豆やトウモロコシなどを収穫しました。茹でたてのトウモロコシを食べると一同びっくり。「あーい、美味し過ぎる」と、世田谷ではめったに味わえない採れたてのトウモロコシの味に感動していました。お腹がふくれたところで、大内さんが震災後の地域の様子をパソコンを使って説明してくれました。「津波で自宅の1階部分は使えない状態になりましたが、自宅の片付けより、畑の復旧を優先しました。試しに植えた小松菜がちゃんと育っているのを見て、野菜に励まされました」と笑顔で語りかけると、子どもも大人も感慨深げでした。



Sendai - Taishido Project

この空は若林も世田谷も どこも全部つながっているんだね



せんだいー太子堂プロジェクト 仙台編

「せんだいー太子堂プロジェクト」とは、東京都世田谷区太子堂地区を中心に活動している「遊びとまち研究会」が主催し、海岸公園冒険広場やおそび場の活動をしている「NPO法人冒険あそび場せんだい・みやぎネットワーク」が協力して行われる、地域間世代間の交流事業です。この事業の一環として7月に仙台の子どもたちが東京を訪れ、8月22日から24日までは、太子堂地区の親子が若林区六郷・七郷地区へやって来ました。このうち仙台では、震災の爪あとがいまだに残る沿岸地区で、地域の方々との交流を深め、初めての農業体験をしました。受け入れた若林の皆さんは、被災体験を語ったり、昔を思い出したり、これからの生活へ大きな励みになったようです。

地域の方々との交流



Sendai - Taishido Project

このプロジェクトは“遊びの記憶の継承”がテーマのひとつ。最初に訪れた荒井2号公園仮設住宅では、荒浜の佐藤昭治さんが「笹笛」を教えてくださいました。「作るのには難しいけれど、大きな音を出すのは難しいんだよ。この公園には丁度良い笹がはえているから、採ってきてごらん。皆で作ってみるから」。その場が笹笛作成講習会に早変わりです。形は上手に出来るけど、やっぱり音を出すのが大変で、子どもも大人も真剣そのものでした。

Sendai - Taishido Project

また日辺グラウンド仮設住宅でも、東六郷地区の方々とお話しました。貞山堀の渡し舟、井土浜の水泳大会、堀にやぐらを組んで盆踊り、秋になれば田んぼのすすめ追ひ。東六郷の皆さんの愉快な話ぶりに笑い過ぎて涙をにじませている世田谷のお母さんもいました。



まちの語り場

集団移転、単独移転、現地再建…。沿岸部にお住まいだった方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体の話し合われている内容についてお知らせします。

荒浜再生を願う会

荒浜に戻って生活再建を目指す住民有志が中心となって活動しています。



▶「マメゲッツアン」だったなあ、「オメゲッツアン」だな、とお月見の話題で盛り上がる一同

9月10日(月)定例会議

内容 ●お月見会の打ち合わせ

当日の様子 9月30日(日)に荒浜にて、住民や支援者を対象に開催する「お月見会(オメゲッツアン)」について、津波で流された石碑を探索するなど、荒浜の歴史と伝統行事を組み合わせたイベントになるよう協議しました。また話題として、荒浜周辺の農地にメガソーラーを設置しようとする動きがあることが報告されました。

問い合わせ先:代表 貴田喜一 090-8254-4270

定例会議:毎週月曜日19:00~ 荒井小学校用地仮設集会所

荒浜移転まちづくり協議会

集団移転の早期実施と移転後の荒浜の地域コミュニティ再生を目的としています。



▶市の担当者も交えて、移転用地の造成スケジュールや事前に融資の確認をすべき事など、熱心に話し合いました

9月14日(金)定例会議 サンピア会議室

内容 ●住宅支援機構との話し合いについて報告

当日の様子 住宅支援機構と移転住居に関しての話し合いについて報告がありました。融資の判断基準については、前年の年収。返済比率にはその他のローンも含む。公的年金や終身年金は収入の対象となるが確定年金はならない。収入証明が必要なので失業中の方は難しいなどの基準がある事。現在住宅ローンが残っている場合は、土地の売却を前提に、第一抵当権を外す事が確認されました。

代表 末永薫(問い合わせがある場合は直接定例会議においてください)

定例会議:毎週金曜日19:00~ サンピア2F 会議室4

明日の二本塚を考える会

東六郷地区における農地と宅地の一体的な整備や住民主体のまちづくりを目指しています。

9月9日(日) 第6回六郷東部地区住まいまちづくり学習会

内容 ●「今後の農業について」遠藤喜一さんのお話
●仙台市への要望書について小野代表より説明
●「なぜ三本塚に関わっているのか」石井山先生のお話

当日の様子 遠藤さんは、農業を再開できた経緯やこれから始まるほ場整備の説明まで、震災後の農家にとって身近な問題を解り易く語ってくれました。特に「三本塚の農業は、アメリカ式ではなくヨーロッパ式が合っている」という言葉に皆さん大きく頷いていました。小野代表からは、三本塚町内会として市へ提出する要望書の説明がありました。東北大学の石井山先生は、三本塚はとても魅力ある地域であり、それは地域住民の繋がりの強さや住民主体の活動に現れている事、それを知ってから更に関心が高まり現在に至っている事を熱心に語りました。

問い合わせ先:代表 小野吉信 090-3122-4843

会議、学習会は自由参加、随時開催

夏のお祭り写真館

例年以上に暑さが続いた8月。各所で夏祭りが開かれました。そんな熱〜い様子を一挙公開します!

8月5日(日) 荒井小学校用地仮設住宅

8月5日(日) JR南小泉アパート仮設住宅

8月5日(日) 日辺グラウンド仮設住宅

8月18日(土) 若松会(沖野事務所)

8月18日(土) 七郷中央公園仮設住宅

8月26日(日) 卸町東2丁目公園仮設住宅

みらいん編集部取材ダイアリー

8月

みらいん編集部は、毎日読者の皆さんと一緒にさまざまな催しや出来事に参加し、取材しています。その一部をご紹介します。

7日(火) アットホームな交流サロン (七郷市民センター)



借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方のための交流サロン「ほっかほかサロン」へお邪魔しました。会場には近隣にお住まいの方が訪れ、和気あいあいとお茶飲み話に花を咲かせていました。サロンは10月以降、毎月第2金曜日に七郷市民センターで行われる予定です。

18日(土) 灯ろうに想いをのせて(貞山堀)



「やすらかに」「てんごくでげんきでね」。荒浜の盂蘭(うら)盆の伝統行事である、「流灯会」が開かれ、荒浜地区に住んでいた皆さんが灯ろうを手に貞山堀に集まりました。ご先祖様、東日本大震災で犠牲になった方を悼むメッセージが書かれた灯ろうが、貞山運河をゆったりと流れていきました。

22日(水) 懐かしい昭和ハタイムスリップ (七郷市民センター)



昭和時代の映像や写真を見ながら語り合う、「昭和の仙台」8ミリで楽しむ茶会が開かれ、七郷地区で被災された方々が集まりました。イナゴ採りや、小学校の給食の様子が映し出されると、子ども時代を思い出した様子で盛り上がる皆さん。ひとときのタイムスリップを楽しんでいました。

30日(木) 田んぼの中の氏神様 (三本塚)



三本塚にある農地の一角で、近くに住むという佐藤栄さんにお会いしました。ここでは、佐藤家の氏神様の社が建っていたのですが、津波で破損したため撤去し、この日は片づけをしていたとのこと。「田んぼの中にあるから田中弁天とよばれていたんだよ」と佐藤さん。「由来はよくわからない」としながらも、江戸時代に建立されたことや、昭和初期までは、名取市関上の漁師も参詣に訪れていたことなど氏神様の歴史を教えてくださいました。社の再建については、自宅のリフォームをしたばかりで、費用のめどが立たないとのこと。「でもいつか建て直したいね」とおっしゃる佐藤さんでした。

読者からひとこと

●農業を続けるために元の土地(東六郷地区)に自宅を再建しましたが、地区に戻っている人はほとんどなく、情報が入ってこないのが、不安な気持ちを抱えています。地区のこと、農業のこと、もっとたくさんの情報を発信してもらいたいです。 若林区/O・Kさん

●あすと長町仮設住宅にペットクラブができて10ヵ月以上が経ちました。今までにたくさんの方たちからご支援をいただき、心から感謝いたします。でも、物資をもらうばかりではなくて、私たちもそろそろ自立を考えないといけない時期ですよ。 太白区/大湯まゆみさん

●岡田の中で移転をしたいけれど、なかなか進まなくて困ってます。今は若林の上飯田にいますが、やっぱりこっち(鍋沼)に来るとなんだか気持ちが落ち着いて安らぐのね。また鍋沼の人たちの近くに住みたいという希望を持ってお父さんと生活しています。 宮城野区/佐藤智枝子さん

被災地レポート

取材地

庄子造園（荒井地区）

被災した沿岸部の植木畑を 震災後五カ月で復旧

残暑が厳しい八月末の夕暮れ。この道四十年以上のベテラン庭師が、手入れの行き届いた自宅の庭木に丁寧な水を撒いていました。「庄子造園」の代表庄子正一さんです。

昨年三月十一日の地震で自宅が全壊。直後は、従業員の休憩室として使っていた広さ九畳のプレハブ小屋に、親類ら十人ほどで寝泊まりして当座をしのいだそうです。現在は、妻の優子さんと近くにアパートを借り、日中は自宅跡地に建てたプレハブ作業場が現場で過ごしています。

自宅から離れた場所にあった五百坪に及ぶ植木畑は、高さ一メートルほどの津波をかぶり、百種類以上の植木のうち七割近くが枯れてしまいました。庄子さんは、先行きの見えない不安を払いのけるかのように、連日植木畑に通い懸命に泥出し作業に当たりました。多数のボランティアの力も借りて、畑として使えるように



植木に水を撒く庄子正一さん

なったのが震災の五カ月後。優子さんは「全国からわざわざ来ていただいた、たくさんボランティアさんに本当に感謝しています。ありがとうございます」と、目にうつつら涙を浮かべて話します。

受けたご恩に感謝しつつ 自宅の再建が今の目標

震災後は、流木がれきやブロック塀の片付けなどの仕事でポツリポツリと舞い込み、現金収入の道は何とか残されました。しかし、震災から一年半が経過する現在でも、庭木を



庄子正一さん、優子さんご夫妻

植えたりする造園業の主たる仕事はなかなか増えないそうです。「これまでのお客さんの中には、沿岸部の津波被害を受けた方たちも多く、影響が大きいんです」と、庄子さん。また、同じ荒井地区内にある仙台市農業園芸センターが津波被害に遭ったため、優子さんが長年手掛けてきた植木の販売が、一年余りはできませんでした。現在は、少しずつ震災前に戻りつつあります。

未来をはっきり見通すことはできませんが、庄子さんご夫婦は、持ち前の明るさと前向きな姿勢で、日々を過ごしています。「震災で自宅を

失った方が、何年後かにはもう一度家を建て直す。その時には庭を作ることになると思います。そこに期待したい。こつこつ細く長くですね」と話す優子さん。

庄子さんご夫婦は、震災直後の生活で、地域の助け合いの大切さを再確認しました。「地域の人たちが食べ物を分け合いました。被害を免れた近所の人たちからは、風呂をもらって歩きました。本当、地域の人たちに助けられました」。感謝の気持ちを忘れないご夫婦は今、失った自宅を同じ場所に再建することを目標としています。「私たちが頑張って家を再建することで、地域の人たちを少しでも励ます事ができればいいなと思います」。二人は、こう口をそろえます。



プレハブの作業場。震災直後は、家族の生活の場にもなりました

情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

深沼海岸清掃ボランティア募集

深沼海岸の被災状況の動画を見てお話を聞いた後、海岸の清掃を行います。参加するボランティアを募集中です。

時 10月21日(日)9:00~14:00
七郷市民センター3階視聴覚室集合(若林区荒井字堀添65-5)
用意するもの 軍手、帽子、携帯ラジオ(お持ちの方)、昼食など。ケガ対策などは各自お願いします
※ボランティア保険は要事前加入
☎ 090-3385-5567NPO法人みやぎ災害救援ボランティアセンター/KIDS NOW(長山)

下荒井育児サロン「お茶を飲みにきてください」

育児の楽しいこと、大変なことを、お茶を飲みながら話してみよう。きっと元気のもとを持ち帰れますよ。

対象 0歳~就園前の乳幼児と保護者
時 11月9日(金)10:30~11:30
場所 下荒井公会堂(若林区荒井字新屋敷9)
持ち物 保護者のお茶飲み用カップ
※申込不要、直接会場へ
☎ 022-282-1111(内線6772)「輪っ!かばやし子育て応援団」事務局(若林区家庭健康課内)

“昭和の仙台”8ミリで楽しむ茶会

昔の仙台の映像を見ながら、お茶とお話を楽しむ会です。

対象 どなたでも。直接会場へお越しください
時 10月17日(水)13:30~(定員30名)
場所 みやぎ生協六丁の目店 談話室
※参加無料
☎ 022-387-0656 NPO法人20世紀アーカイブ仙台

支えあいセンターからのお知らせ

借り上げ民間賃貸住宅(以下、みなし仮設)にお住まいの方を支援する支えあいセンター主催の、おすすめサロン・イベント情報です。

サロン名	対象	時	時間	会場	内容	申込	問
作品展 ~復興への願い~	どなたでも	10月10日(水) 10月11日(木)	10日 11:00~17:00 11日 9:00~15:00	仙台市福祉プラザ 2階	みなし仮設にお住まいの方の趣味活動や心の支えになった手づくり作品の展示	不要	中核支えあいセンター 022-217-7234
和み・かたらいん 茶話会	気仙沼市、南三陸町、石巻市、女川町、東松島市、岩手県で被災され若林区のみなし仮設にお住まいの方	10月16日(火)	10:00~12:00	若林中央 市民センター 別棟2階	健康エクササイズ、交流会	要 (電話、FAX)	支えあいセンター わかばやし 022-781-0559 FAX022-282-3234
お茶っ交流会 「らくらく運動」	宮城野区のみなし仮設にお住まいの方	10月18日(木)	10:00~12:00	高砂市民センター	保健師の健康チェック、軽運動、交流会	要(電話)	支えあいセンター みやぎの 022-292-0990
ほのほの中央サロン	太白区のみなし仮設にお住まいの方	10月20日(土)	10:00~12:00	太白区中央 市民センター	軽体操、歌、茶話会	要(電話)	支えあいセンター たいはく 022-217-7234
秋保の民話を聞く	旭ヶ丘市民センター周辺にお住まいの方	10月25日(木)	13:00~15:00	旭ヶ丘 市民センター	秋保の民話語り、茶話会	不要	支えあいセンター あおば 022-217-7234
トーンチャイムで 音楽を楽しみましょう	泉区のみなし仮設にお住まいの方	10月31日(水)	10:00~12:00	黒松市民センター	トーンチャイムの音楽鑑賞、演奏体験	不要	支えあいセンター いずみ 022-772-5755

※その他の交流サロンについては、支えあいセンターからのダイレクトメールでご確認ください

健康相談などのお知らせ

電話：022-282-1111(若林区家庭健康課・障害高齢課)

相談名	開催日	時間	会場	内容	担当	問合先
母と子の健康相談	10月26日(金) 11月9日(金)	13:30~14:30 9:30~10:30	若林区役所3階 六郷保健センター	育児の心配や母と子の健康についての相談	保健師・栄養士・歯科衛生士	家庭健康課 内線6772
子どものこころの相談室	10月11日(木) 10月25日(木) 11月8日(木)	午後・予約制	若林区役所3階	震災後の子どものこころの健康に関する相談(要予約)	児童精神科医	
健康づくり講話 健康づくり相談	10月17日(水)	13:30~14:30 14:30~15:30	若林区役所3階 健康教育室	「漢方ってどんなもの?」 健康相談	薬剤師 保健師、栄養士、歯科衛生士	家庭健康課 内線6785
こころの健康相談	10月10日(水) 10月18日(木) 10月23日(火) 11月1日(木)	13:30~16:00	若林区役所3階	こころの健康に関する相談(要予約)	精神科医師、 精神保健福祉相談員、 保健師など	障害高齢課 内線6752
震災こころの相談	随時 (土日祝日除く)	8:30~17:00	若林区役所 1階窓口など	震災によるストレスやこころの相談	保健師など	
高齢者総合相談	随時 (土日祝日除く)	8:30~17:00	若林区役所 1階窓口	高齢者の健康や介護・福祉の相談	保健師など	
認知症高齢者の家族交流会	11月9日(金)	13:30~15:00	若林区役所3階 健康教育室	認知症の方を介護している家族の交流会	保健師など	障害高齢課 内線6307
認知症の介護講座 と相談会	10月27日(土)	講話:13:30~14:30 相談:14:30~16:00	若林区中央市民 センター(別棟) 第3会議室	講話:医師講話「認知症の正しい理解」 相談:相談会	「認知症の人と家族の会」 宮城県支部、保健師	

「まめ」のすすめ

今年、健康診断を受診しましたか。健診時期、カレンダーにとらめっこしながら、酒や菓子を控えるなど、健康診断に向け慌てて生活の調整に取り組むことはありませんか。運動不足の解消に、ウォーキングやスポーツ、トレーニングを始める方もいらつしやるのではないのでしょうか。

最近、健康づくりでは、普段の生活の中での活動「生活活動」が注目されています。家事をする、立ち話をする、移動をするなど、生活活動の多くは低強度の活動ですが、わたしたちの健康づくりに重要な役割をはたしていることが明らかに、注目されています。

効率の良い、便利な暮らしになればなるほど、わたしたちの生活活動は少なくなってしまう。テレビのリモコンを使わない、食料品は必要な度に行き、電話は立って話す、じっとしていない、会釈は声を出した挨拶に変える等、ちょっとした工夫で生活活動を増やす事が出来る。さあ、来年の健診に向けて、環境には省エネ、でも活動は「まめ」に惜しみなく、いつもの生活の中で、健康づくりを始めませんか。

(財)仙台市健康福祉事業団 健康増進センター

健康増進課課長 入江徳子

入江徳子 (いりえ のりこ)

健康運動指導士として震災後、避難所や仮設住宅集会所で指導を行っている健康増進センターのリーダー

クロスワードパズル

出題
石田竹久

こたえ

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

1	2	3		4	5
6		A		7	
		8	9		
10	11		12		13
	14			15	16
17			18	19	
20				21	
D				B	

タテのカギ

- ①仙台市の紅葉の名所です。落差55mの景観が見事な秋保○○○○
- ②「○○に聞く」は、広く世間に知られているという意味
- ③実るほど 頭を垂れる ○○○かな
- ④ロンドン五輪の女子バレーボールで銅メダルに輝いた、仙台市出身の大友○○選手
- ⑤秋の味覚のひとつ。女川や気仙沼の港に活気が戻りました。「秋刀魚」と書きます
- ⑦10月27日～11月25日、松島でのイベント。円通院を中心とした、紅葉○○○アップ
- ⑨魚や肉などをペースト状にしてオープンで焼き、冷製のオードブルに
- ⑩雄大な紅葉スポットといえば、栗原市の○○○○山
- ⑬水瓶座と牡羊座との間は、○○座
- ⑯シャリにサビとネタを乗せて、寿司の王道です
- ⑰10月7日、金華山に生息する○○の角切りが行なわれます
- ⑲○○がネギをしょって来る

ヨコのカギ

- ①千客万来の折に、関係者に配られる○○○○袋
- ④夜討ち○○駆けで、不意の訪問
- ⑥観光循環バスの一ぶる仙台。1日乗車券は、○○○が600円で、12才未満の小児が300円
- ⑦紅葉ドライブといえば、蔵王エコー○○○が代表的
- ⑧10月7日、村田町で伝統を誇る、○○○まつりが開催されます
- ⑩パスポートの表紙にある、秋の花
- ⑫大島、網地島など、本州から離れた島
- ⑭消火のために、みんなで協力してバケツ○○○
- ⑮10月6日に白石市で開かれる、○○小十郎まつり
- ⑰横綱の土俵入りで「ヨイショ!」と声が掛かるのは、○○を踏む時
- ⑱「○○に釘」は、手応えがないという意味
- ⑳間や間は門、図や団は国。漢字の部首のひとつです
- ㉑気仙沼などで水揚げされる、北海道沖から南下した旬の○○○ガツオ

前回のこたえ

A キ B ン C モ D ク E セ F イ

でした。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
ヒ	ツ	ヨ	ウ	モ	モ															
ト	メ		コ	ヨ	ミ															
メ		サ	ン	サ	カ															
10	ボ	カ	ン		ケ	シ														
14	レ	イ		タ	イ	ヤ														
		16	セ	ン		17	キ		18	ク										
19	ギ	ン		20	キ	タ														

編集後記

黄金色に頭を垂れる稲穂の海が、涼しい風に波を打っています。永い夏が終わって、実りの秋、収穫の秋、馬肥ゆる秋、待ちに待っていた美味しい季節がやってきました。さあ、存分に食べまくりましょう。(きくち)

荒浜の子どもたちと一緒に20数年ぶりの鬼ごっこ。息切れしながらも全力疾走。童心に帰って楽しみました。翌日筋肉痛になったことは、大人の威厳にかけて子どもたちには内緒です。(佐藤)

●●● お住まいを移転される方へ ●●●

お住まいを移転されると、移転先に「みらいん」が届かなくなる可能性があります。引越後も引き続き購読を希望される方は、編集部までご一報ください。

宛 先：〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 「みらいん」編集部
TEL：022-390-5755
FAX：022-390-5756 e-mail：kawara@mwww.or.jp